



丹波山村
地域おこし協力隊

地域の学びを支える人たち

放課後学習教室

昨年は丹波小学校の学習支援員として活動し、児童の性格や理解度を把握しました。今年からは、毎週火曜日の放課後にコミュニティサロンで学習教室を開いています。

学習時間は30分。前半15分はプリント学習、後半15分はタブレットを使ったアプリ学習を行っています。主に漢字と算数を対象に、反復学習を基本としています。ALTのラミー先生に協力いただき、英語学習も取り入れることで、より充実した学習内容となっています。

学校で学習してきたことの定着と理解度を深めることを重視しています。各児童の苦手な部分を補えるよう、学習内容をカスタマイズし、子どもたちの将来の進路に関わらず、基礎学力の向上に貢献できればと考えています。



しもむら かえ

下村佳恵
さん



下村佳恵さんは、丹波山村と千葉の二拠点生活を送りながら、子どもたちの学習支援に尽力されています。毎週行き来をしながら放課後学習教室を開き、子どもたちの学習意欲を高めています。一人ひとりの児童のために調整した学習素材を揃えているので、週一の学習教室の準備に要する時間と労力は大変なものです。

二拠点生活は、移動時間や生活環境の変化など、様々な困難が伴います。特に、都会と山村の往復は、時間と体力の消耗が大きいです。また、家族の生活や自身の仕事の両方をこなしながら協力隊としての活動をしていくことは簡単ではありません。しかし、下村さんはこうした苦勞を乗り越え、子どもたちの笑顔のために活動を続けています。



限られた予算の中で優れた教育素材を探すのが大変です。主にネットで素材を探してきますが、各児童の理解深度に応じた適切なものを選ぶのに苦勞しています。

現在行っているドリルが終わった児童には漢字検定の教材を用意したいと考えています。読み書き、簡単な計算は、学校で繰り返し行うものではないので、それを行える場として放課後学習教室を続けていきたいです。

これからも村民の皆様のご理解とご協力をお願い致します。



耕す喜び 未来を育む

急峻な斜面に囲まれた丹波山村。平らな場所が少なく耕作地としては不向きな環境の中でも畑を作り、日々の糧を得てきたこの村に二人の若者が農業による地域活性化を目指してやってきました。二人は耕作放棄地を再生し、延べ1200平米の畑を土や環境に適した様々な農法を試みながら、無農薬・無化学肥料の野菜を栽培しています。

おおそね ゆうた 大曾根 悠太

出身:埼玉県
令和6年4月に入隊
丹波山の自然に惹かれてやってきた絵描き。四か所の畑を耕し、さつまいもをはじめ様々な野菜を作っています。丹波山で採れた芋を使って冬は焼き芋屋さんを始める予定です。是非、村の皆さんに食べて欲しいです。



村内で畑を始めて8ヶ月。自身がアレルギー体質なこともあり、子どもでも安心して食べられる無農薬・無化学肥料の野菜をこれまでに40品目ほど栽培してきました。

中でも力を入れてきたのがサツマイモです。1000株の苗を3箇所の畑に分けて植え、畑ごとに違った農法を実践。驚くほど良く育った畑もあれば、獣被害に悩まされた畑もありました。でも出来は上々。今季は300kgの収穫となりました。お陰様で冬から村で焼き芋を始められます。1月からお手製のリヤカー屋台で回る予定です。

また子どもと関わるのが大好きで、「枝豆のさや採り会」や「サツマイモ掘り会」を村の親子と一緒に楽しみました！野菜を作るだけでなく、それを食べてもらえる人たちの未来も考え、日々畑と向き合っていきたいです。



えっちゃんが作ったスイートポテトパイ

畑の活動の様子はこちら
Instagram「ファームてんせんえん」



しばた えつこ 柴田 悦子

愛称: えっちゃん

出身:東京都
令和6年8月に入隊
前職はペットショップの店員
農業高校出身なので将来は地方で農業をしてみたいと考えていました。NHKの放送で丹波山の協力隊が紹介されているのを観て村に来ました。
趣味はお菓子作り



丹波山村に来て3ヶ月。村の方々の優しさに支えられながら、毎日楽しく農作業に励んでいます。先月からは役場裏に花を植える計画を立て、現在それに向けて活動中です。また、趣味のお菓子作りを活かし、丹波山村産野菜を使ったお菓子もどんどん作っていきたくです。サツマイモ掘り会では、大曾根さんが栽培したサツマイモを使ってパイを作り、参加者の皆さんに食べてもらいました。野菜作りとその活用、花の景観作りで村を盛り上げていきたくです。